令和5年度学校評価　加古川市立志方東小学校

教　育　目　標　　**「こころ豊かな　たくましい子」**　―自ら考え、正しく判断し、やりぬく子を育てる―
めざす児童像　　〇考える子　〇　やりぬく子　〇助け合う子　〇たくましい子
めざす学校像　　〇家庭、地域から信頼される学校　〇「地域の光」となれるような学校　〇誰もが自分の能力を十分に発揮できる学校
めざす教師像　　〇学び続ける教職員　〇人間性豊かな魅力ある教職員　〇自己変革力のある教職員
研究推進テーマ　　〇「思考力・判断力・表現力の育成　～学びの深化を図る指導と評価の在り方～　」

※A:達成している　B:概ね達成している　C:あまり達成していない　D:達成していない

観点及び重点評価項目	取組状況・成　果	自己評価	関係者評価	課　題・改善の方策	来年度に向けて
学ぶ喜び ・基礎基本の定着 ・思考力、判断力、表現力の育成 ・体験学習の充実 ・家庭学習の定着	・全国学力・学習状況調査から国語科では、思考力・判断力・表現力が問われる問題に対し、全国・県を上回る結果であり、特に「話すこと・聞くこと」は大きく上回っていた。これは、学習のまとめなどをGoogleスライドを活用して発表する機会が以前より格段に増えた結果であろうと考えられる。 ・従来より、課題解決に向けて自分で考え、自ら取り組もうとする姿勢が見られたが、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることや、互いの意見のよさを生かして解決方法を考えるなど協同的な学びにも、積極的に取り組んでいることがうかがえる。	A	A ・児童と保護者で家庭学習の達成感の認識に差が生じるのは、保護者がテストの点数に結び付けて考えるからかもしれない。 ・子どもが学校へ行くのを楽しみにしていることが素晴らしい。これが一番である。	・これからも学習コンテンツの最大限の活用、並びに従来の学習指導の長所を生かしながら「思考力・判断力・表現力」を育成し、児童の主体的に学ぶ態度につなげていきたい。また、生成AIのような先進技術も活用しつつ、しっかり自分の頭で考える力をつけていく。 ・家庭学習について、「きちんとしている」と答えた割合が児童と保護者では、かなり認識の差がある。これについては、毎年の課題であり、児童の家庭学習が形だけに陥ることなく、学習の質をあげていく指導を継続していく。	・学校グランドデザイン（学校経営）のキーワードである「安心安全」「個別最適化」「協働」を指標として、見つかった課題を見直し、さらに教育活動を進化させていきたい。特に、児童が安心して通える「いじめを許さない学校」「命を大切にする学校」づくりを引き続き推進していく。 ・「学校へ行くのが楽しい」と感じている児童の割合が93%、「勉強はよくわかっている」と答えた児童の割合も同様で、ほとんどの児童が充実した学校生活を送っていると考えられる。一方、楽しいと感じていない割合と、勉強がよくわかっていないと感じている児童の割合も同様である点から、学習でのつまずきが楽しいと感じられない大きな要因となっている可能性がある。全児童に「学ぶ喜びを感じさせる」を念頭に、令和4年度から研究推進している「加古川型スマート探究学習」（協同的探究学習とICT活用の融合）を、令和6年度も継続して教職員の資質向上に努め、個別最適化されたわかりやすい授業を展開する。 ・令和6年度新入生は、12名であるが、それ以降は一桁の入学生であることがわかっており、令和9年度より複式学級となる学年が出てくる。新2年生は3名であり児童の成長を踏まえ、積極的に他校との同年代交流（対面）の持ち方を考え実践していく必要がある。その他最適な教育環境を学校、家庭、地域で協働しながら整えていく。 ・開かれた学校づくりの一環として作成したスクールガイドシートは、「今後も作ってほしい。行事が一覧であるので分かりやすいし、校時表や非常時についてもわかりやすい」「1枚でほしい情報が網羅されてありがたい」と好評であったので、見直しをして改善し今後も継続して作成する。
心の教育 ・道徳、人権教育の推進 ・特別活動の充実	・保護者アンケート「思いやりの心や親切な感情が育っている」という質問に対し「そう思う」が95%と高い割合で、児童の類似質問よりも高かった。家庭においても、一人一人が思いやりと優しさをもって行動に移せていると考えられる。 ・児童の発達段階に応じた道徳、人権教育や福祉学習を進める中で、それぞれの多様性についての考えが身に着きつつある。 ・「先生は、困ったときに話を聞いてくれる」「いじめのないクラスを作ろうとしていると感じる」という質問に対し、「そう思う」と答えた児童の割合が、ともに100%であったことから、「命」をキーワードにした安心安全な学校づくりが浸透していると考えられる。	A	A ・「『先生は困ったときに話を聞いてくれる』が100%は素晴らしい」児童と教師がよい距離を保てている。 ・先生方が子どものことを一生懸命に考えてくださり、ありがたい。	・めざす児童像の一つである「やりぬく子」について、児童の98%は「最後まであきらめずにやりとげようとしている」と答えているのに対し、保護者の割合は80%と、昨年度同様認識に差がある。今年度から追加した2学期末の懇談や教育相談などを活用して家庭との情報交換を密にし、児童理解を深められるよう努めていく。	
開かれた学校づくり ・情報発信 ・連携	・日常や小規模校の利点を生かした学校行事など、児童の様子を学校ホームページや各種便りで伝える等、積極的な情報発信により、開かれた学校づくりができている。また、今年度より新規で作成した「スクールガイドシート」は、保護者に好評であった。 ・環境体験学習、ふるさと学習、手話教室など、学校支援ボランティアやゲストティーチャーを効果的に活用できており、自分の住む町の良さを知る機会ともなっている。保護者からも「他の学校なら経験できないであろう貴重な体験や行事が楽しみだった」という意見があった。	A	A ・ふるさと意識は、地域に住む大人が希薄になりつつある。受け継ぐ後継者不足が課題である。 ・学校だよりや学級通信で学校の様子がよくわかり、読むのを楽しみにしている。	・第3者評価において「授業参観日に大谷選手のグローブを使ってキャッチボールをしたのは楽しかった。このような地域と一緒にできる活動を考えてもよいのでは」という意見をいただいたので、相談しながら企画していきたい。 ・営農組合への依頼、綿花による靴下づくりなど、地域の産業などを見つけながら、継続できる体制づくりをしていく。	

「志方東ブランドマネジメント」に関する評価

1人1台端末について質の高い活用能力の育成 ・身につけた端末活用能力を生かして地域に貢献する（「地域の光」となる学校）	・ICT機器の活用は、Chromebookが文房具として定着し、学習活動の中で情報を集めて整理して、調べたことを工夫してまとめて発表するなど、先進校的実践が継続してできている。 ・今年度は、3年生が環境体験学習の一環である稲作づくりで、多くの支援ボランティアの方にお世話になっていることもあり、志方東コスモス祭りのチラシをChromebookを活用して作成し、地域の回覧板によるお知らせに採用していただいた。4年生と5年生は福祉学習の一環として志方公民館やしろやま農業研修センターの案内表示などを、同じくChromebookのGoogleスライドで作成した。	A	A ・Chromebookにおける学習コンテンツなど、子どもたちの操作技術向上には、目を見張るものがある。 ・子どもも保護者もみんなが、「心をこめて精一杯」が根付いている。	・Chromebookの操作に慣れ、習熟度が上がるにつれ、活用範囲が広がり、扱う情報量なども多くなる。各学年発達段階に応じた情報リテラシー、情報モラル教育の必要性が高まってくると考えられるので、計画的に学校全体で推進していく。 ・4年生以上の児童対象で実施しているインターネットトラブル防止講座を、人権参観日の日に保護者も参加にしたところ、好評であったので、来年度も継続する。	・GIGAスクール構想実現に向け、ICT機器の活用において先進校的実践ができており、児童にもChromebookが学習道具として定着している。 ・自己肯定感が高く自分の夢を持ち、目標をもって粘り強く取り組む態度が育っている。それに起因する社会貢献度も高い。身に着いた端末活用能力を生かし、社会にある課題をいかに解決していくかを考えられるような児童を育成するために、研修を充実させ教職員のスキル向上を推進する。 ・本来の教育活動ではないが、「全国小・中学校リズムダンスふれあいコンクール」において6年生が「規定曲小学生部門」で第2位を受賞した。受賞に際しては多くの方に応援をしていただき、また大変喜んでいただけたことが強く印象に残る。児童には、自分たちが日々精一杯学習等に取り組んでいる姿が、地域を元気づけ活性化させているという意識を持たせ、そのことを将来にわたって誇りに思えるよう、教育活動の充実を図る。 ・「主体的に未来を生きるための質の高い端末活用能力」の育成と「心をこめて精一杯活動」をさらに推進し、「志方東ブランド」としての愛校心を育て、地域を輝かせられる「地域の光」となる学校を目指し、地域家庭との協働をさらに進める。
学校・家庭・地域の協働 学校運営協議会の活用 【心をこめて精一杯活動】	・児童の心に「心をこめて精一杯」が根付き、それを合言葉に多種多様な活動を行うことで、より主体的に取り組むようになり、自尊心を高めることにつながっている。 ・保護者や地域の方と連携しながら教育活動が進められていた。こうした活動をとおして、「志方東小学校で学ぶことをうれしいと思う」という質問に対し、「そう思う」と答えた児童の割合は、98%にのぼり愛校心につながっている。	A	A ・学校で困っていることはないかを聞き、地域で手伝えることをしていきたい。	・本校の特色ある活動として、来年度以降も継続していくことを前提に、活動内容、時期などを検討し、さらに充実した活動に昇華させ、教育環境を整えていく。	